

寒さも和らぎ、球根やさなぎの中に秘められた命に、思いをはせる季節となりました。本日は、私達 223 名の為に卒業証書授与式を挙げて頂き、誠にありがとうございます。卒業式挙行について難しい判断があったかと思いますが、この式を整えて下さったことを、卒業生一同、心より感謝しております。

真新しい制服に身を包み、新入生としてこの礼拝堂で入学式を迎えた私達は、新たに始まる高校生活に胸を膨らませつつも、戸惑いや不安を募らせていました。クラス発表の掲示板に並ぶ知らない人の名前を見ては、緊張を隠すことができませんでした。しかし、さまざまな行事を重ねるごとに、尚綱が私達の居場所になっていきました。運動会でお揃いのクラス T シャツを纏って応援したこと。尚綱祭の準備で絵具だらけになって笑ったこと。修学旅行では、仲間たちと初めて見る景色に感動し、平和について考えたこと。一つ一つが今となっては大切な思い出です。

そして三年次、尚綱の学びの集大成としてクラス司会礼拝を行いました。聖書に記された神さまの言葉によって励まされたことを一人ひとりが証に綴り、クラス全員で賛美歌を歌いました。そこで、わたしはクラスを代表して証を述べる機会をいただきました。「力は弱さのなかでこそ十分に発揮される。むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りなさい。」自分のハンディキャップを恥じていた私が、聖書から教えられた言葉です。人は誰でも、多種多様な悩みや弱さを抱え、煩悶しながら生きています。しかし、その中でこそ神さまは働かれ、無条件に私達を愛し、見守り、励まして下さっている。そのことを一人ひとりが確信する機会となりました。

また、互いに仲間の証を聞くことで、それぞれの喜びや悲しみ、気付きを分かち合うことができました。ある仲間は、人の命について証を綴りました。それは、今日この場で共に卒業式を迎えるはずだった、ひとりの仲間を失った悲しみと対峙する証でした。

2 年生に進級して間もない頃、私たちの仲間である佐藤寧々さんが、突然の病に倒れ、帰らぬ人となりました。突然の訃報に、私達は深い悲しみに陥り、誰もが大量の涙を流しました。命には終わりがあることを知っていても、愛する人の死は悲しく受け入れ難いものでした。また、それと同時に、終わりがあるこの命の尊さ、今日の大切さを痛感したのです。彼女がこの学び舎で共に学び、共に生きた 1 人の仲間であることを私達は心に刻み、今日をしっかりと生きたいと思います。

同級生のみんな、3 年間本当にありがとう。尚綱での生活は本当にあつという間でしたが、進路実現への道のりは思いのほか遠く、投げ出したい気持ちになったこともありました。しかし、一緒に困難を担い合う仲間がいたからこそ、勇気を振り絞って挑戦を続けることができました。それぞれ進む道は違うけれど、一人ひとりが素晴らしい未来を拓くことができるよう、祈っています。

在校生の皆さん、皆さんは私達 3 年生にとって、とても心強い存在でした。決して頼り甲斐のある先輩とは言えなかったけれど、私達の背中を見て、ついてきてくれてありがとう。部活や委員会活動の中で、支え合い、結束を深められたことが、私達の学校生活をより輝か

しいものにしてくれました。どうかこれからも充実した学びを重ねながら、尚綱の伝統を大切に守ってください。

そして、校長先生をはじめとする先生方、授業だけでなく、青春のひと時に力を与え、今日まで暖かく指導して下さいましたことに心から感謝します。悩みを抱えたときは相談に乗って下さり、過ちを犯したときには諭して下さいました。先生方はいつも私たちに、時に適った言葉をかけて下さいました。そのおかげで今の私達はここに立っています。3年間本当にありがとうございました。

最後に、私たちの成長に心を砕き、誰よりもこの式に参列することを楽しみにしていた、両親へ。毎日早起きして、お弁当を作ってくれたお母さん。仕事で自分が1番疲れているにもかかわらず、毎晩私に「お疲れ様。」と声をかけてくれるお父さん。生まれてからずっと面倒をかけてばかりの娘ですが、いつも変わらぬ愛情を注いでくれてありがとう。生まれたときから何度も泣き、ときには2人につらく当たってしまったこともありましたが、いつでもわたしの味方になって応援しつづけてくれました。普段は照れくさくて言えないけれど、言葉では表現できないほど、たくさん感謝しています。3年間、私をこの学校に通わせてくれたこと、何より18年間育ててくれて本当にありがとう。どうかこれからも私達の歩みをそばで見守っていて下さい。

私達 223 名は今日この校舎を旅立ちます。これからの歩みの中でも多くの困難が待っていると思いますが、この学び舎で得た言葉と知恵を礎に、力を尽くしていきます。先生方、在校生の皆さん。私達が時折、この学校に帰ってきたときは、暖かく迎えて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、皆様と尚綱学院の益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、答辞とさせていただきます。

卒業生代表 E. H